



日耳鼻医学会FAXニュース NO 198

平成25年2月8日 発行 (特)日本耳鼻咽喉科医学会
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館5F

E-mail jimuj@jenti.or.jp HP http://www.jenti.or.jp
FAX 03-5524-5228 TEL 03-5524-5230

6月30日に総会、従たる事務所を廃止の方向へ 1月20日第5回全理事会報告

1月20日(日)東京の事務所第5回全理事会が開かれた。伊東理事長の「喫緊の仮題は組織の強化と今後のフォーラムのあり方で、昨年の医会長協議会で頂いた意見を参考にしながら、実のある活動をしたいので協力を宜しくお願いしたい」と挨拶して協議に入った。協議の概要は以下の通り。

第38回臨床家フォーラムの進捗状況

9月15・16日、品川のココヨホールで開催。第1日目は学術講演4題と懇親会、2日目は全体集会以3題予定されている。1題は福島原発災害について日本医師会常任理事石井正三(マサミ)先生の講演が既に決定。

第9回日本臨床分科医会代表者会議の出席者と議題

伊東理事長と中澤副理事長が出席。当会から平成26年度の診療報酬改定や専門医制度について議案を提出したこと、日医から組織図や支部数、専門医との関わりについて問い合わせがあり、回答したことが報告された。

患者からの医療相談とその対応について

荒川委員から参考資料が提供された。

平成25年度の総会は6月30日(日)東京の八重洲富士屋ホテルで開催することが決定された。

従たる事務所の廃止について

平成24年4月1日から特定非営利活動促進法が施行され、主たる事務所のある東京都他、現在佐賀と徳島にある従たる事務所においても各々の県に届け出が義務づけられたことにより、設立に関わった当時の副理事長の了解を得て従たる事務所を廃止することにした。なお定款変更が必要のため、6月の総会で議決を求めることにした。

日医と予防接種推進専門協議会が進めている「予防接種法改正による7ワクチンの定期接種化を実現するための署名活動お願い」に全面協力することにして、会員に署名活動に協力して頂きたいとFAXにて依頼することにした。

メールマガジン上での小児急性中耳炎に対する小児科医の意見として「小児科・耳鼻科両科を受診する必要はない」という、中耳炎は小児科医で治療するものと誤解されるような表現がなされていたことが委員より報告され、協議の結果、関係者に適切な対応を求めることにした。

来年度以降のフォーラム担当について - 継続審議

組織強化について

退会医会、未加入医会へ、医会の全国的な組織の必要性を認識して貰うため、レセプト調査、FAXニュース、会誌ががみ、ホームページの充実など地道に活動を続けて理解して貰うことにした。 次回全理事会は3月17日開催予定。

第9回日本臨床分科医会代表者会議開催される

1月30日(水)午後4時より日本医師会にて日本眼科医会の担当で開催された。日本臨床分科医会代表者会議は、日本の医療全般にわたり、適切な医療が行われるよう、各分科医会の情報交換・連絡協議を行い、日本医師会の活動、充実に図り、国民の医療を守ることを目的として平成18年11月に第1回が開催された。その後毎年2月と8月に開催されている。

当日は日本臨床整形外科学会、日本精神神経科診療所協会、日本臨床内科医会、日本病院脳神経外科協会、日本臨床泌尿器科医会、日本臨床皮膚科医会、日本放射線科専門医会、日本産婦人科医会、日本小児科医会、日本臨床外科学会、日本眼科医会、そして当会の12団体が参加。また日本医師会からは横倉義武会長他、常任理事が9名参加した。

代表の眼科医会会長高野繁先生の開会の挨拶の後、日

本医師会の横倉義武会長が「日本医師会で各科の代表者と話が出来ることは大変嬉しい。昨年の12月の総選挙で、安倍政権がスタートしたが、財政再建を第一目標としており社会保障をどうするかという声がなかなか聞こえて来ない。

自民党から民主党、そして自民党と政権が変わったが、医療に対する政策はあまり変わっていない。高齢社会において医療と介護をどうしてゆくか、専門家の知恵を拝借しながら議論を進めたいと思っている

日本医師会の政治団体医師連盟は1月17日に行った執行委員会で次回の参議院選挙に我々の代表として候補者を出すべきということになり羽生田副会長を推薦することにした。是非専門医会の支援を宜しくお願い致したい。」と挨拶した。その後議事に入り、各参加団体が組織などを含めての現状説明と専門医制度についての意見を述べて会議は終了した。次回は8月の予定。

有毛細胞を薬剤で再生

慶應大

音を電気信号に変えて脳に伝えるマウスの「有毛細胞」を、薬剤を使って再生することに世界で初めて成功したと、岡野栄之(ひでゆき)慶応大教授と米ハーバード大のチームが発表した。有毛細胞が傷むことが主因となる「感音難聴」は、世界の人口の1割以上とされる。有毛細胞が加齢や騒音等で一度傷むと再生は極めて難しく成果は新たな治療法につながると期待される。1月9日付の米科学誌ニューロンに掲載した。

哺乳類では、胎児の段階で有毛細胞ができると、隣接する細胞は有毛細胞を支える「支持細胞」へと変化することが分かっている。チームは、アルツハイマー病治療薬として開発された薬剤が、この作用を邪魔することに注目。有毛細胞が傷ついた後にこの薬剤を用いると、支持細胞を減少させて、有毛細胞を増やすことを突き止めた。

また、大音量で難聴にしたマウス10匹のうち、5匹のマウスの内耳にこの薬剤を手術で投与。3カ月後に調べると、投与された5匹は、未投与の5匹に比べ、有毛細胞の一種の数が最大で2倍以上多くなり、難聴もわずかだが改善していた。

(2013年1月11日 毎日新聞社)

お願い

日本医師会と予防接種推進専門協議会からの「予防接種法改正による7ワクチンの定期接種化を実現するための署名活動の御願い」に協力を宜しくお願い致します。2月15日までに各地区医師会に提出して下さい。



定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤

処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること) 薬価基準収載

アラミスト® 点鼻液27.5µg 56噴霧用

Allermist® 27.5µg 56metered Nasal Spray フルチカゾンフランカルボン酸 エステル点鼻液

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入) グラクソ・スミスクライン株式会社 グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先
TEL: 0120-561-007 (9:00~18:00/土日祝日および当社休業日を除く)
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15 GSKビル FAX: 0120-561-047 (24時間受付)

2010.5